

会 議 録

	第 11 回唐津市子ども・子育て会議
開催日時	令和元年 8 月 27 日（火）10:00～11:40
開催場所	唐津市役所 第 1 会議室
出席者	山口委員（会長）、坂本（慎）委員、河村委員、肘井委員 松本委員、市丸委員、坂本（美）委員、大園委員 ※順不同
資料	資料 1 「第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」骨子（案） 資料 2 保育所・幼稚園・認定こども園に設置状況 資料 3 「第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」における 提供区域設定について 資料 4 第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」における 量の見込み算出について 資料 5 国のワークシートに基づく量の見込みについて

会 議 内 容
<p>13:30 開会 <資料の確認> <あいさつ> （保険福祉部部長）本日は、御多忙の中、唐津市子ども・子育て会議に出席いただきまして、ありがとうございます。今回の会議では、計画の骨子案について、各事業の利用ニーズ予測についての検討が主になると思います。</p> <p style="padding-left: 40px;">子育て世帯への支援充実のため、忌憚ないご意見をいただきたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。</p> <p><会議成立の報告> （事務局）唐津市子ども・子育て会議条例第 6 条 2 項により本日は委員 14 名中 8 名の半数以上の出席を得たことから会議成立となる。</p> <p><会長あいさつ> （会 長）本日は、御多忙の中、唐津市子ども・子育て会議に出席いただきまして、ありがとうございます。今回の会議は計画の骨子案検討や量の見込みについて、事務局からの説明が主になるかと思いますが、疑問点やご意見をいただければと思います。</p> <p><以下、会長の進行></p> <p>●資料 1 「第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」骨子（案） （資料に沿って事務局より説明） （事務局）現計画骨子と次期計画骨子（案）についての主な変更点について説明。</p> <p>【質疑】 特になし。</p> <p>●議題 2 保育所・認定こども園・幼稚園の設置状況 （資料に沿って事務局より説明）</p>

(事務局)

市内の教育・保育施設の設置状況及び定員数合計、令和2年度新設予定施設について説明。

【質疑】

特になし。

- 議題3 「第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」における提供区域設定について

(資料に沿い事務局より説明)

(事務局) 提供区域についての基本的な考え方/現計画での提供区域()/次期計画の提供区域(案)/について説明。

現計画では提供区域を1(市全域)と設定しており、現計画期間中の問題も見受けられないため、次期計画についても同様に提供区域を1(市全域)と設定したい。

【質疑】

特になし。

次期計画の提供区域(案)について承認いただいた。

- 議題4 「第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」における量の見込み算出について

(資料に沿い事務局より説明)

(事務局) 次期計画の見込み量算出の考え方、算出

方法を資料に沿って説明。

資料4説明後引き続き資料5の説明へ移行

- 議題5 国のワークシートに基づく量の見込みについて(量の見込み検討案)

(資料に沿い事務局より説明)

(事務局) 資料4の考え方に基づき、資料5の量の各事業見込み検討(案)を提示/現段階では見込み値は暫定であるため、今後精査していく。

【質疑】

(委員) 坂本慎) 見込み量が記載されている事業のひとつに、利用者支援事業(子育て支援センター)とあるが、これは子育て情報センターと同一のものでしょうか。

(事務局) 岡口) 条例としての建物名称が子育て支援センターとなっており、実際の事業は建物3階の子育て支援情報センターとしておこなっております。

(委員) 坂本慎) わかりました。もう一点、「乳児家庭全戸訪問事業」の利用率が95~96%となっているが、全戸とならない理由を教えてください。

(事務局) 吉野) 全戸(100%)とならない理由としては、里帰りが遅くなり訪問期間中と重なる場合や、各ご家庭の事情で訪問を控えてほしいということもございます。何らかの形で子どもさんの様子は把握していき

い。

(委員)坂本慎)わかりました。ありがとうございます。

(会長)現計画の冊子をみていただくと色々な唐津市の取り組みが記載されております。それらをご覧になられてでも結構ですし、各事業についての疑問点等何か委員の皆様ご質問ございますでしょうか。

(委員)坂本慎)資料2の施設一覧の中に事業所型保育園が記載されていないのだが、記載されていない理由があったら教えていただければ。

(会長)次期計画には事業所保育の数も記載されるのでしょうか。

(事務局)木下)質問にお答えします。事業所内保育所の大半は従業員枠の定員が大多数を占めており、地域枠の定員は少数となっております。次期計画では、この地域枠定員を量の見込み・確保方策に含めるのかは現在検討中ですので資料2には載せおりません。

(ぎょうせい)補足説明：現計画ですと、特定地域型、小規模という保育所の領域に入っています。次期計画の量の見込み、それに対応するための確保方策...つまり需要と供給に事業所保育の地域枠(地域の方が利用可能な枠)を入れるかどうかはこれから検討していこうというところです。

(会長)わかりました。全国的にも企業が経営する保育園が増えてきており、今日の委員の方にも事業所内保育所の方がいらっしゃるので、ご意見や現状のお話等があれば...

(委員)松本)はい。唐津赤十字病院でございます。うちは認可外保育施設は〜とふるほいくえんというのを経営というか委託しておりまして、今年度1歳を迎えるお子さんが2名、2歳を迎えるお子さんが7名です。3歳を迎えるお子さんが4名、(全員)いらっしゃいます。で、キャパ的にも今がもうマックスの状態、入れないような状況です。うちが職員が610名ほどおりまして、看護師がそのうち300人を占めております。常時育児休暇や産休育休者が30名ぐらいいるんですが、うちの保育園にも入れない、地元の希望する保育園にも入れないので、育児休暇がだいたい平均1年なんですけれども、延び延びになって、1年半だったり2年だったり、育児休暇が長くなっていくという傾向が今ちょっと続いている状況というのがございます。

(香月副部長)現在市内には事業所内保育、認可外保育所が10施設ございます。

ほとんどが従業員の方のための保育施設となっております。

(会長)事業所内保育所で横のつながり(保育会のような)等はあるのでしょうか。

(委員)肘井)そういった組織はないかと思えます。

(会長)そういった組織があれば保育所経営のノウハウ等学べるので今後ほかの企業も保育所経営に意欲的になるかもしれないですね。

市丸園長から何かご意見ありますか？

(委員)市丸)先日唐津市内の企業さんがうちの園を見学に来られ、園の経営、給食の献立等について話を聞かれた。そういった形でどこの認定こども園も敷居は低いので、情報交換も盛んにおこなっていければと思う。

(会長)市丸園長先生からもお話があったとおり、なかなか横のつながりもないので、年に1回程度保育所、認定こども園、事業者の従事者が情報交換できるようになればと思う。

(香月副部長)ちょうど本日、幼保小が集まっての交流会を学校教育課が開催されま

す。今回初めての試みですので、幼稚園、保育園、小学校ということで声をかけさせてもらっておりますが、今後は認可外保育所の皆さんにもお声かけを検討していきたい。

(会長) ありがとうございます。ぜひお願いしたいです。

その他委員の皆様でなにか今日一言づつでもいただければと思います。

何か子ども子育て支援計画にも反映できるようなものがあるかもしれないので。

(委員) 坂本美) 乳幼児訪問等未就学の児童に関しては、手厚く相談できる雰囲気があるかと思うのですが、小学生になるとそういった機会が減ってしまい、不安に思われている保護者も多いと思う。実際相談するとなると、未就学児までは受動的でも相談できる環境があるが、小学校にあがると自ら相談窓口を探さないといけなく相談しづらいイメージがある。年1回でも学校とは別で子育てに関する相談がしやすい環境があればなと感じます。

(委員) 河村) 先ほど横のつながりという話がでたが、児童クラブに関しては定例会という形で支援員間の意見交換をおこなっています。

その中での各クラブでの課題もあり、本来ならもっと子どもたちにきめ細かい対応をしたいが、施設間の移動の問題、施設の広さ、支援員の資格の問題等、現実的にはできていないところがあるので市とともに改善していくようにできればと思う。

(委員) 大園) 私自身市内の保育園に努めているが、資料5の市がおこなっている各事業を保護者の方がわかられていないのではと感じる。それを市がHPや情報誌等でどう報発信していくかという問題もあると思うが、私たち保育士からも情報発信していくためにも、勉強していかないといけないと感じた。

(会長) ありがとうございます。皆様のお話にもあったとおり、子育て支援と言えば

未就学児がどうしてもクローズアップされるが、本来であれば赤ちゃんから乳幼児期、小中高というようにずっと切れ目のない支援をおこない、それをどのように事業計画に反映させるかを協議していくためにも、各連携を強めていく必要があると感じました。

本日はありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

11:40 終了。

以上